

2003年3月27日発行 (隔月刊)



∞∞∞今号のメニュー-∞∞∞

- 2003年春新宿連絡会の
対都改善闘争の展望
笠井和明
- 新宿池袋越冬後段の取り組み
終了
- 厳冬期無料宿泊事業も終了
- 炊出し等も継続中
- ホームレス法による実態調査
行われる
- 一時保護センター板橋寮開設
- 補正予算による緊急物資提供
される
- ボランティア募集！

財政報告1-2月速報

定価100円 (カンパ込み)

2003年春

新宿連絡会の対都改善闘争の展望

笠井和明

1 はじめに

第9次新宿越年越冬闘争が無事に終了した。

「無事に」と云う表現は、戸山公園3名、中央公園1名、新宿駅周辺3名、私たちが把握しているだけでも計7名の尊い命がこの厳しい冬の期間、路上で失われてしまった事実から考えると妥当なものではないのかも知れない。

生と死の直結した路上に立つ私たちにとって「無事」なる冬はあり得ない。「仲間の命は仲間の力で守る」この越冬スローガンの空しさと困難さを私たちは常に感じてきた。死者の数を少しでも減らすための努力をし、冬の間だけの無料宿泊所を確保し、命を守る情報を提供する越冬事業総体の結果は、そう確乎たる成果が出る訳もない。

野宿者総体に影響を与えてる程のドラステックな新宿の冬を演出して来た各種「大事件」は、幸いにして今年の冬は起らなかった。その事を思えば「無事」と云う表現を使い総括させてもらう事を許して欲しい。

もちろんこの一言で総括できる程、単純な冬はそれこそなく、表面上はさらさらと流れる時の水面下に於ては様々な動きがあった冬でもあった。そのすべてを列記する必要はないだろうが、本年の春以降予想される様々な動向は、この冬と無関係ではもちろんない。何かが育み、何かが壊れる。新宿の冬はいつもそうである。

が、残念な事に予想屋でも夢想屋でもない私たちに今年、何を創り、何を失っていくのかは

今、想像できない。

2 運動の基本的観点

誤解を恐れずに云えば、私たちのスタンスは「対策より運動」「法律より運動」である。もちろん、対行政的な課題として政策上、対策上の提言、要求、交渉を行うし、昨年、一昨年のような状況の場合は法的な制度確定のために努力を惜しまない。

が、それよりも大事なのは当事者の運動であると言う点で連絡会は一致しているし、その点が当事者団体と謂われる所以である。もちろんこれら是对立的に考えるような概念ではなく要求運動の結果諸対策が拡大拡充していく、制定運動の結果、法制度が整備されていくと云う関係にあることは言うまでもない。

こういうスタンスを取っている団体にとってみれば、当事者を組織もしないで、かつ当事者の大衆運動も組もうとしないで、行政に要望書を出したり、交渉するような団体は異質にしか思えない。もちろん学者の立場からは提言をしたりする事もあるだろう、また、市民層ボランティアの立場から交渉もするだろう。それを否定するものではないが、受益者たる当事者を抜きに、当事者の立場に自らの立場をスライドさせて物事を言わんとするのはとても僭越な行為ではないかと考えるのである。

私たちは当事者の運動団体であることに誇りを持っているし、当事者に関わる施策のある種

の決定権はここにあると信じている。

世の中には運動アレルギーをお持ちの方は多々おり、運動団体（組合活動などもそうであるが）と云うのは今の社会において正当には評価されていないようだ。が、単純に考え、こと野宿者問題に限定すれば、法制度や自治体レベルの施策、対策の受益者は当の野宿者であり、（全員とは云わないものの、大半の）野宿者が納得、合意しない限りにおいては施策、対策としての行政サービスは提供できないし、また実施したとしてもさほど利用者がいないと云う事となる（新宿で言えば、96年の芝浦寮などを思い起こして頂きたい）。たとえ野宿者を代弁する学者が合意、納得したとしても、それによって合意されたものをどのようにして当の野宿者に伝えるのか？どのようにしてそのサービスを利用しようとする当の野宿者の能動性を引きだしていくのか？

口では何とでも言えるのである。制度的議論と実地運用議論が違ふよう、学者的論議と現場的論議はこれまた違ふのである。

その意味で、私たちは、この春も仲間と共に運動をしていく。

3 自立支援事業の評価と、 拡大拡充を求める たたかい

全国的に見ると、自立支援事業と云うのはあまり評価されていないように感じる。「収容主義だ」「エリート育成主義で分断施策」だ、とかの議論は各地において、またこの東京においてもかなり飛び交っている。自立支援事業を否定しない人々の中にも、「否定はしないが評価もしない」とい

う例によって訳の分からない人々もいる。

私たちのスタンスはこうである。「（私たちが活動の基盤としている東京のという限定が付くものの）自立支援事業は施策の方向としても、当事者のニーズからしても評価できるし100%賛成である。その一方、方向性としては間違っていないものの、内部において改善や制度変更すべき点は細部にあたって散在する」。

つまり、私たちの自立支援事業（東京都の路上生活者対策の機軸をなすもの）に対する要求は、この事業内の変更を要求するものであって、自立支援事業を否定または後退させようとする意図が100%ない要求である。

今日の全国的な議論を耳にすると、自立支援事業よりも就労対策、中でも公的就労の提供が必要であると云う論調が主流を占めているように感じる。私たちにとってこう云う議論はあまり納得が出来るものではない。私たちは自立支援事業と就労対策を対立的に捉える考え方を否定している。就労対策の強化は、私たちが要求し制定させたホームレス自立支援法を見るまでもなく、今後の大きな課題である。しかしそうだからと云って、就労支援だけを単独で要求する事には私たちは否定的である。あくまで、自立支援事業と云うパッケージの中で要求し、勝



方において、肝心なステップアップ方式が、緊急一時保護センター大田寮、板橋寮の開設は実現し得たものの、グループホーム（自立生活訓練ホーム）など計画事業は進まず、また自立支援センターも渋谷寮が未設置のまま放置されている、リピーター問題が解決しない等の中でステップアップの「つなぎ」に摩擦を生じているなど、制度全体がここに来て「混乱」もしくは「とん挫」しつつあるのも事実である。また、民間参画も自立生活サポートセンター「舩」（もやい）による住宅確保時の保証人提供事業や、NPO新宿ホームレス支援機構が今後行う予定である技能講習事業など、一定の成果はあるものの、官民協力体制が大きく創られた訳ではなく、都内にある多くのNPO団体は、その力量との関係等により、宿泊所事業など生活保護制度（福祉）の枠内に留まっている。

東京において今、求められているのは、自立支援事業体系をより強化し、よりやり直しが出来るようにし、この体系を多くの野宿者の自立への足がかりに実体的にして行くことである。また、この自立支援事業体系と生活保護制度とが分離して進むのではなく、両輪の如く補完しあいながら進むようにして行くことである。そして、民間団体がこれらの事業体系の中、潤滑油になるようなポジションを獲得し、就労支援を民間の側面から大胆に実施して行くことである。

4 春期闘争からメーデーに向けて

私たちは、この春、大きなスローガンとして「都区は自立支援事業体系を完成させ、民間団体との協力体制を確立し、柔軟かつ選択肢可能な自立に役立つ多くの施策をちりばめろ」を掲げ、①自立支援センター渋谷寮の早期設置、②グループホーム（自立生活訓練ホーム）事業の早期実施③リピーター（再入所）の無条件容認④雇用創出基金事業の自立支援事業枠の確保⑤技能講

習制度の早期実施⑥都営住宅枠の拡大⑦（就職時、入居時の）保証人提供制度の確立等を個別要求項目として、対行政のたたかいを再開する。

言うまでもなく、このたたかいの主人公は、厳冬を何とか生き延びた仲間たち一人ひとりである。私たちは、路上における都庁前行動、第9回新宿メーデー集会など、仲間が気軽に参加できる行動形態を維持しながら、他方、生活保護受給者、大田寮など施設入所者が自らの立場で出来るたたかいの場を設定して行く。

そして、このたたかいは、ホームレス自立支援法による基本方針策定、地方自治体による実施計画の策定、また2003年度補正予算、2004年度予算獲得の全国規模の仲間のたたかいへと直結していくたたかいである。

自立支援センターを否定し、もしくは過小評価した上で、公的就労を求める全国の風潮からすれば、私たちの考えは異端の部分に属するのかも知れない。が、それでも私たちは間口を広げ、仲間による運動を基盤に、仲間の屋根と仕事を獲得しようとする多くの団体と共闘しながら、これらのたたかいを東京で、そして全国規模で進めて行きたい。



活動報告

新宿、池袋の越冬後段の取り組み終了。それとしても今年の冬は厳しかった。新宿、池袋でも多くの死者が…

大田寮厳冬期無料宿泊事業すべて終了。入寮監視活動などを続けました。

炊き出しパトロールなど日常活動は春も忙しそう

◇越冬後段の取り組み強化も 新宿では多くの死者が…◇

当初の暖冬予想を裏切り、東京の今年の冬は例年に増して一段と厳しいものになりました。天候も週に一度は崩れ、雪や冷たい雨の日などは特段の冷え込みでした。

冷たい雨が一晚降り続いた1月18-19日にかけて、新宿駅東口ロータリーで72歳の仲間が亡くなりました。また、2月18日には中央公園で62歳の女性が、3月5日には東口ロータリーで60代の男性が、10日には大ガード下で73歳の仲間が亡くなっています。越年前後の戸山公園内での連続した路上死に続き、この冬、私たちが確認しているだけで7人の死者となります。もちろん、この数字はあくまで私たちが把握しているだけの数字で、新宿区は広く、また都内全域ともなればどれだけの命がこの冬、路上で儂く散っていったのか計り知れません。

高齢の仲間は年齢的にも厳しいだろうと、連絡会パトロール班や周囲の仲間が生活保護を申請するよう懸命に勧めていた所でした。それだけに悔しい思いが残ります。また、中央公園の女性は長い間、連絡会活動を陰になり支えてくれて来た仲間の特段の悲しみがあります。

当人の意志さえあれば、病院に通院するなり、生活保護を受給するなりの対応が区役所でなされている新宿区でさえ、このような路上死は絶えないどころか増え続けています。施策と路上の狭間にはまだまだ厚い壁が残されています。

施策がいくら前進しようとも、それを利用できない、もしくは躊躇を覚える仲間も大勢います。これは路上の人々の権利意識レベルの問題も含まれ、単に役所の対応が冷たいと云う問題では片づけられません。情報伝達など技術的な点のみならず、メンタルな部分にまでどこまで突き刺さる事が出来るのか？ 私たち支援団体側の問題でもあります。

大きな課題を孕みながら、パトロール、福祉行動、医療相談活動を強化しながら、これ以上の犠牲者を出さず、真冬の新宿での支援活動は続けられました。

◇池袋も苦難の冬でした◇

豊島区でも1月29日「ふれあい公園」で60代の仲間、2月6日には「稲荷公園」で40代の仲間がそれぞれ亡くなりました。

豊島区内の公園はそれぞれ規模が小さく、テントを張れるだけのスペースがあまりなく、ほとんどの仲間が駅構内やビルの軒下などを借りて寒さを凌いでいます。これらの公園の仲間もダンボールなどで蔽いを囲うだけの粗末な防寒対策しか取れていませんでした。二人とも今のところはっきりとした死因は分かりませんが、寒い夜ただただに凍死の可能性も捨てきれません。

豊島区は路上生活者対策に消極的と云う訳でもなく、区内に自立支援センターを設置したり、街頭相談も都内随一のサービスで行なっていますが、その反面、公園での環境整備工事や、駅

周辺環境浄化パトロールなど路上生活者を追い散らそうとする意図が見え隠れする事も平気で行なう区で、「多くもなく、少なくもない」200名規模の路上生活者に対して明確な施策ビジョンがもちきれていません。その事も反映して路上生活者にとって福祉事務所が「遠い存在」にしかありません。この冬も他の「中間区」にならない厳冬期宿泊事業を行わず、通常の自立支援宿泊枠で済ませました。

こういう地域事情や背景も路上の仲間の冬越しをより一層困難にさせている要因なのかも知れません。

路上死については統計すらなく、都内ともなると全体数が把握し難く、仲間の情報などに頼るしかないのですが、この冬、隅田川沿いのテント等でも複数の死者が出ていると言われ、その他の地域を合わせるとかなりの数の仲間が厳冬故に命を落としていると思われまます。

せめて路上死をなくして行く、減らして行く、そういった保護施策の明確な目標すらもない東京の冬は、各地で仲間を薙ぎ倒し、そして去っていきます。

◇新宿厳冬期無料宿泊事業終了◇

新宿区でこの冬、毎週木曜日に受付をしていた厳冬期無料宿泊事業が3月20日の受付をもって終了しました。連絡会も毎週木曜日入寮抽選の立ち会い、見送り活動、また大田寮の面会激励行動を毎週続けてきました。

厳冬期対応無料宿泊はトータルで約450名の仲間が1週間から3週間枠で利用しました。当初予想通り自立支援センター枠も含めてトータルで500名枠の確保が、冬の新宿の仲間の実態に即した事が証明されています。一人一回までの利用と「いつでも、誰でも入れる冬場のシェルター」からは程遠いものでしたが、それでも、多くの仲間が利用し、身体を休め、また、自立支援センターの情報などを寮の中で共有するなど、有効に使われたと考えます。それにしてもゾッと

するのは、もしこの冬、この短期宿泊の枠がもっと制限されていたらどうなっていたらどうか？と言う事です。それでなくとも死者が多かった冬でしたので、例年並みの宿泊場所をがむしゃらに要求し獲得しておいて不幸中の幸いであつたと考えます。

大田寮は4月からは一と月入寮、希望者は自立支援センターへ自動転寮できる、通常の大田寮に戻ります。引き続き、入寮立ち会い、面会行動を続けて行く予定です。

◇日常活動◇

炊き出しに来る人数も越年明け、1月半ばから3月中旬までは若干減って来ましたが、3月末にかけて少しずつ増え始めています。現在、最大で900食提供できる体制で炊き出しを続けています。炊き出しに来る人の数は、路上からの仕事の有無のひとつのパロメーターにもなります。年度末にかけて追い込み仕事となる建築系の日雇い仕事が若干増え、引越しシーズンにもなるとサービス系の日雇業も若干増える。そんな影響で炊き出しに来る人数も変わって来ます。

ただし、すでにそれらの仕事にアブれた仲間が新宿に戻りつつあり、路上の景気回復も今年も例年通り一時的なものである事が実感させられます。仲間の数が一年を通してもっとも多くなるのが、これからの4月から6月の間です。

この春、要求運動と同時に炊き出し、パトロールなどの日常活動も忙しくなるのを覚悟しながら活動を続けています。



路上トピックス①

ホームレス法による全国実態調査が2月に無事終了。単純集計は3月28日公表予定

ホームレス自立支援法に基づく「ホームレスの実態に関する全国調査」が東京においても無事終了しました。2月2日から8日まで「路上生活者概数調査」が行われ、個別面接による「生活実態調査」が2月15日から28日にかけて実施されました。

いつも概数と云うのは一人歩きをするのですが、今回行われた「概数調査」の数が、来年度以降の様々な施策の基礎になってしまう事から見ても、とりわけ注目しておく必要があると考えます。

何度も指摘して来たように東京都の概数調査は、東京都が公園管理事務所や建設事務所や河川事務所、そして駅舎管理者、公共施設管理者などに依頼をして行なうものです。時間も特に指定されず、「昼間」行なって欲しいと依頼するだけのようである。専門の調査員などを雇う訳ではないので、各管理事務所等の職員が職務中に管理下での路上生活者の数（主要にはテント＝定住者の数）を数えるだけです。この調査では、公園のベンチで座っているだけの路上生活者がカウントされるのか否かは分かりません。路上生活者であるのかないのかの判断が難しい場合、対応をどのようにしているのかも分かりません。調査主体の東京都でさえ各所から報告の上がった数をただ鵜呑みにするしか他なく、再調査の余地すらありません。

この時期、大田寮には約300人、自立支援センターには約250人が在籍しています。これらの人々の数はもちろん概数調査には入って来ません。昼間働き、夜路上で寝る人の数も入っていません。昼間図書館等で休んでいる人の数も入っていません。もちろん移動中の人も入っていません。

路上生活者の概数を把握するのに最も有効な時間帯と云うものを知っておきながら、非定住者が最も把握し難い昼間になぜあえてやるのか、との疑問を私たちは再三指摘してきましたが、この問いに対する回答は何もなく従来手法で現在調査が進められています。遺憾な事ですが、調査され出てきた数字が一人歩きしないよう、全力を尽くしていきたいと考えています。

今回の東京の概数の全容はまだ入手していませんが旧来の調査方法における概数は減っている一方、厚生労働省に提出した概数数値は増えているようです。これには理由があり、これまでの東京都調査は多摩川など国管轄の河川敷等に居住する人々の概数を無視し続けて発表を続けてきました。これが今回付け加えられた事により、全体数は増えると言う結果になったのです。マスコミ等は「東京のホームレス急増」と騒ぎたてるでしょうが、統計上のミスで増えただけで、本当にどれくらい増えたのかは不明のままです。尚、全国の概数も若干増えているとの事です。

他方2月15日からホームレス生活実態（個別面接）調査も東京において開始されました。

これに先立ち各区とも調査員事務打合わせ会議を実施し、各区が依頼した調査員に対し、調査の進め方、調査員の心得などの説明がなされ、その後約10日程かけ、調査員により担当ブロック内の路上生活者の方の協力を求め、コミュニケーションを図る事前調査がなされ、そして15日からの本調査が開始された所です。

事前の段取りがしっかりとしている事もあり、調査が混乱した妨害されたとの事例は報告されておらず、路上生活者の方々も協力的で、順当に調査が行われたようです。

新宿区では、社会福祉士会やNPO新宿ホームレス支援機構などの民間団体に調査員を紹介してもらう事により、ボランティア経験が豊富な対応に馴れた調査員を揃える事ができました。ホームレス自立支援法による民間団体等との連携はこのように既に始まっています。アンケートを受ける側も普段見慣れた顔の方がよほど安心できるのか、スラスラとアンケートに答え、また、行政等への意見なども忌憚のない意見を伝えてくれています。

初の全国統一調査ですし、また、国の基本方針策定の基礎資料となるものなので、どのような結果が出てくるのか注目をしていきたいと思えます。単純集計の結果は3月28日に公表される予定との事です。

路上トピックス②

自立へのステップアップ最初の施設・緊急一時保護センター板橋寮、3月20日開設！

緊急一時保護センター二つ目の施設となる板橋寮が3月20日に開設する事が正式に決定しました。実際の入所開始は3月25日からの予定となっています。利用定員は100名、プレハブ2階建て、2段ベットの居室、10人部屋が10室、その他、事務室、相談室などがセットになった施設です。

これにより、緊急一時保護センターの各区利用枠も改定。ちなみに新宿区は28名から38名に増員されました。

板橋寮は、中央、北、文京、豊島、板橋、杉並、練馬、中野、足立の各区が専属で利用、その他の区は新しい利用枠で大田寮を引き続き利用と云う振り分けになります。現在大田寮に入っている利用者の板橋寮への移転は行なわないようなので、実際大田寮利用区が新しい利用枠で募集できるのは、5月頃になる予定です。

また、板橋寮は市街地の中に建てられた施設で、管理問題についてはかなり慎重にならざるを得ない等の懸念が既にあります。この種のトラブルを避けるため、緊急一時保護センター内のプログラムをどのように変更できるのかについても注目されます。管理主義に陥らないようなプログラム変更(自立支援センタープログラムの前倒し実施等)を私たちも求めていきたいと考えます。大田寮開設時のよう、寮生に不利益を与えるような「混乱」がない事を私たちは願って止みませんが…。

路上トピックス③

新宿区での緊急援護物品提供作業、下着など2600セット官民共同作業でくまなく配付。

ホームレス自立支援法制定後の国の補正予算を活用した緊急援護物品提供事業が新宿区で行われました。新宿区が提供したのは肌着、もも引き、カイロ、手袋の物品セットと菓子パンで、2600セットが用意されました。配付についてはNPO法人新宿ホームレス支援機構が新宿区と協定書を交わし、官民の協力体制で出来るだけ多くの路上生活者に手渡せるよう新たな実践的な枠組みを設けての実施となりました。

5日は戸山公園での配付。事前のチラシで配付時間場所を周知していたので、高田馬場駅周辺の仲間約150名が集まっています。そこへ生活福祉課の課長を筆頭に新宿区職員が物品をもって登場。NPO新宿と新宿連絡会のボランティアスタッフ(ほとんどが当事者)がそれを出迎え、手際よく物品の整理、並ぶ列の整理を行い、職員と共同で集まって来た仲間への配付を終了しました。150セット残った物品は、西戸山公園、高田馬場駅周辺、戸山公園大久保地区、箱根山地区へと、パトロールをしながら配付。その日の内に300人の仲間の手に手渡されました。

続いて9日は中央公園での配付。こちらは1000セットと大量。しかも連絡会の通常の炊き出しと同時並行なので少なからずの混乱が予想されていましたが、ボランティアスタッフは手慣れたもので、炊き出しの後、当日会場にきた約600名の仲間を肌着のサイズ別に整理、混乱も滞りもなく配付を完了しました。400セット残った物品は、中央公園、新宿駅西口、東口、北口のパトロール班が袋に詰めて炊き出しの場に来られなかった仲間の分を出張配付。こちらもその日の内に1000セットが仲間に手渡されました。中央公園では16日も同じく1000セットの配付。当日雨天のため都庁下での配付に変更になりましたが、こちらも順調に配付作業が終了しました。最終回の19日の戸山公園での配付も多くの仲間が集まってくれ、瞬間に300セットは売り切れになりました。

冬季対策と云う意味もあり、冬物の物品がメインで時的に若干遅すぎたのかとの懸念もありましたが、丁度配付時期は冬の気圧が戻っており冷え込みが厳しかったので、普段なかなか新品を手にする事の出来ない肌着類や手袋は事の他人気になったようです。「来年もまたやって欲しい」「今度は靴下なんかも入れて欲しいな」「ようやく国も動き始めたね」と云う喜びの声と、「これからこんな風にどんどん対策が変わって欲しい」「施設も仕事も、もっと必要だよ」と云う期待の声が交差した、初の国の補正予算による緊急援護物品提供でした。

新宿連絡会会計報告 (2003年1月～2月期速報)
春期活動、炊出しのためのカンパ継続を御願い致します！

収入)		支出)	
①炊出し部門寄付	¥18,000	①炊出し事業費	¥77,533
②活動部門寄付	¥18,050	②医療活動事業費	¥13,209
③越冬活動部門	¥94,832	③パトロール関連費	¥38,841
④通信部門寄付	¥11,050	④活動関連費	¥18,632
⑤その他寄付	¥92,550	⑤福祉面会関連費	¥44,290
⑥前期繰越金	¥1,536,526	⑥自立支援事業費	¥19,022
		⑦教宣活動関連費	¥123,960
		⑧越冬関連費	¥111,572
		⑨事務費	¥66,217
		⑩文化娯楽費	¥5,000
		⑪その他の事業費	¥1,021
		⑫池袋関連事業費	¥13,935
		⑬雑費	¥12,300
		⑭次期繰越金	¥1,225,476
合計)	¥1,771,008	合計)	¥1,771,008

2002～2003年越冬は皆様方の御支援の中、終了致しました。冬期の御支援、本当にありがとうございました。そして今年の春もさまざまな支援活動を多角的に実施して行きたいと思います。引き続きの御支援宜しく御願い致します。
 (新宿連絡会事務局一同)

路上文芸総合雑誌
 ろ じ ゅ く

露宿

23号好評発売中!
 p38 B5版 500円



病魔に破れた羽賀義勝の遺稿自叙伝「ヤマの幽霊」好評掲載中!
 ドヤ作家鈴木克彦の小説「朝太郎の箱船」もいよいよ佳境!
 路上歌人富士森和行の巻頭歌集も絶好調!

購読申し込み方法

郵便振替用紙 (00160-6-190947ろじゅく編集室) に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい (発行ごとに郵送します)。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」(隔月刊)

〒170-0014 東京都豊島区池袋 1-14-5-13

TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450 (笠井)

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp

URL・http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

東京・路上 春

第9回新宿めーてい

2003年5月1日(木) 新宿区柏木公園(新宿駅西口徒歩5分)

正午よりメーデー集会

午後1時 都庁へのデモ出発

午後1時30分 代表団による東京都福祉局との交渉

春の対都連続要求行動

- 4月11日(金) 都庁前行動
午前11時都庁第一庁舎入口付近集合(集会&情宣活動等)
- 4月18日(金) 都庁前行動
午前11時都庁第一庁舎入口付近集合(集会&情宣活動等)
- 4月25日(金) 都庁前行動
午前11時都庁第一庁舎入口付近集合(集会&情宣活動等)

問い合わせ 090-3818-34508(笠井)もしくは、メールshinjuku@tokyohomeless.com

Shinjuku & Ikebukuro 連絡会NEWS/VOL.34

2003年3月27日発行(隔月刊) 定価100円

編集・発行 新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議(新宿連絡会) & 池袋野宿者連絡会

〒111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館 2F

電話・FAX 03-3876-7073 もしくは 090-3818-3450 (笠井)

カンパ全送付先・郵便振替口座00170-1-723682「新宿連絡会」

メール・shinjuku@tokyohomeless.com <http://www.tokyohomeless.com>

編集協力・ろじゅく編集室 東京都豊島区池袋1-14-5-13 <http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>